

予算額

10,007,935 円

## トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	5 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	3 団体	0 団体	2 団体	0 団体

トップアスリート総数	8 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	1 名	3 名	2 名	2 名

アシスタントコーチ総数	7 名
-------------	-----

指導種目	バドミントン、サッカー、陸上(短距離／長距離)、バレーボール、バスケットボール
------	---

## ◆効果をもとめるための工夫や取組など

- 各教室開始前に既存の指導者と通年で指導方針に関する摺合せや、指導後の練習内容の修正点、次回への要望等を話し合う時間を積極的に設けたり、教室中もアスリートとクラブ側指導者とのコミュニケーションを促すことで、指導者にとっても参考になる練習方法を聞く場を積極的に設けた。
- 「トップアスリートによる指導」という絶好の機会を活かして新たな企画に取り組んで頂くよう促した。
- 指導開始後も指導先団体やアスリートとコミュニケーションし、指導の場にも同行することで問題の收拾や改善活動を出来る限り行った。
- 地域課題の解決を主目的として構築したWEBサイト「楽しくスポーツ！」においてアスリートによる指導の様子も掲載することでより多くの人に継続的に活動の様子を提供できるようにした。

## ◆成果と課題

## 〔成果〕

- 指導した生徒のモチベーションや技術が向上し、指導した個人・チームが大会等で好成績をあげている。
- 既存の指導者が様々な指導方法を学び、普段の指導の場に活用。
- 派遣先クラブにとっての新たなコミュニティの形成
- 派遣先クラブのPR・認知度の向上
- アスリートへの新たな活動の場の提供

## 〔課題〕

- 派遣先団体の様々なニーズ(種目、指導方法)に対して適したアスリートをマッチングさせること。
- 中間組織等との連携による多くのアスリートとのネットワーク形成が必要。
- 派遣開始後の状況に応じた柔軟な対応が重要。
- 自主事業化を目指した取組。企業等の巻き込みや行政・教育委員会との連携。

## 地域課題解決に向けた取組

取組の名称	親子体操教室とコミュニティWEBサイトを活用した ①子育て家族間コミュニケーション ②世代間コミュニケーションの促進				
趣旨・目的	拠点クラブである調和SHCが取り組んでいる「親子体操教室」の内容を大きく改良し、更には新たに参加者間や参加者と住民のコミュニケーションを促進するための仕掛け(コミュニティWEBサイト)を活用する事で、参加者の増加を促進するとともに、時間や地理的な都合で参加できない人に対しても、有益な情報を提供する。 ＜コミュニティサイトで実現すること＞ ・物理的に参加できない親子への教室の様様(WEBコンテンツ)の提供 ・子どもの身体能力に合わせた運動に関する問い合わせ&回答機能 ・子どもを持つ家族にとって有益な地元密着型の情報の発信 ー公園、遊び場、運動場、散歩コース情報、 ー習い事、病院、飲食店情報				
内容	・小さい子を対象とした新たなイベント「親子ふれあい遊び」を数回実施 ・専用WEBサイト「楽しくスポーツ！」による情報発信力の向上				
対象者	①未就学児(2～6歳)の子どもとその親 ②地域住民	参加人数/回	①10組20名 ②アクセス1,500超	実施回数	①4回/月 ②常時
1 効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画や写真を多用することで親子体操の良さや楽しさを効果的に伝える工夫。</li> <li>専用ページ「楽しくスポーツ！」以外の地域情報サイトにも情報を掲載し、新たな手段で申込みの促進を狙う</li> <li>平日、土曜日と開催日を変えることで多くの人に参加できる工夫をした。</li> </ul>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>2歳前後の子どもと親を対象とする「親子ふれあい遊び」を実施し、様々なニーズ等を把握し、今後の地域課題解決の貴重なデータとなった。</li> <li>WEBを使ったPRをはじめとする通常活動とは異なる告知手段を様々試行したことで、今までクラブの存在をしらなかったターゲットにもアプローチし、地域の子育てのためのコミュニティ参加を促進することができた。</li> <li>子育て世代が積極的にWEBでの情報を活用するため、WEBでの情報提供が非常に有効であった。</li> <li>アスリート自身が自らの活動を情報発信する場としても活用され、多くのアスリートやスポーツ関係者に本活動をPRする場となった。</li> <li>テレビ等のメディアで取りあげられたり、セミナーなどで本事業の取組を紹介した後に、具体的な内容を発信できるための情報発信の受け皿としての効果を発揮した。</li> </ul>				
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事・学習・しつけなどのスポーツだけではなく広い領域についても、もっと多くの催し物や情報提供、情報交流の場が求められている。</li> </ul>				

## 本事業全体の成果と課題

### 〔成果〕

<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい取組による新たなネットワークの構築(指導先団体、アスリート、行政・教育委員会等の関係者)</li> <li>WEBを活用した情報発信によりアスリート指導や親子体操等の活動の認知度が向上した。</li> <li>活動をメディアで取りあげてもらったことによる各団体や活動自体の認知度向上。</li> </ul>
---

### 〔課題〕

<ul style="list-style-type: none"> <li>助成を得るための制約が多いため、拠点クラブや派遣先団体での創意工夫の余地が少なかった。</li> <li>概算払のタイミングが遅いため、資金繰りに非常に苦労した。</li> <li>本事業について行政や教育委員会側の理解や協力を得るために労力を要した。</li> </ul>
--